

夏に美しい黄色い花が咲くスプレーギク新品種 「スプレーアイチ夏1号」の特性と栽培技術



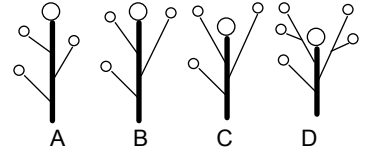
愛知県農業総合試験場は、全国農業協同組合連合会と共同で、夏秋系黄色シングル咲きスプレーギク「スプレーアイチ夏1号」（2015年品種登録、流通名：あいむりゾート）を育成しました。

花弁が斜め上向きの状態を長く保ち、花盤の緑色と花弁の鮮やかな黄色のコントラストが美しい、商品性の高い品種です。

耐暑性があり、7～9月の高温期の作型においても開花が遅れにくく、安定した出荷が可能です。

品種の特性

- 花色は黄色、花盤は緑色の色鮮やかな夏秋系品種である。
- 草丈や花首の伸長性が優れていて、開花の揃いが良い。
- スプレーフォーメーション^注)はAタイプ、花房は横に広がりすぎず、すっきりとした草姿になる。
- 到花日数は、7~9月開花作型で46~50日である。
- 日持ち性は、既存黄色品種「オルカ」と同程度である。
- 花卉が斜め上向きの状態を長く保ち、商品性が高い。



注) スプレーフォーメーション
模式図
(以後の説明でも同じ)

作付体系

出荷時期	5月	6月	7月	8月	9月	10月	消灯時 草丈目安
7月 下旬	● (21日)	▲ (46日)	■				35 cm
8月 月上旬	● (28日)	▲ (48日)	■				40 cm
8月 月下旬		● (30日)	▲ (50日)	■			40 cm
9月 月中旬		● (30日)	▲ (50日)	■			40 cm
9月 月下旬			● (32日)	▲ (46日)	■		45 cm

● : 定植 ● : 電照 ▲ : 電照打ち切り(消灯) ~ : シェード ■ : 収穫

- 7月上旬から10月上旬までの出荷が可能である。
- 7月上旬及び10月上旬の開花作型では、花卉が槌状になりやすい傾向がある。
- 電照は暗期中断で4~5時間、電照打ち切り(以下、消灯とする)後はシェードで12~13時間日長処理を行い、花芽分化、発達を促進させる。

栽培管理

親株管理

- 親株1株当たりの採穂本数は、既存品種と同程度である(図1)。
- 6月上旬以降の穂では、早期発蕾が発生することがあるため(図2)、以下の対策をとる。

- 伸びすぎた枝からは採穂しない
- 早めに採穂し、冷蔵しておいた穂を利用する
- 5月下旬から親株にエテホン剤を散布する(図3)

定植・栽植密度

- 穂冷蔵による生育促進、または開花遅延などの影響は小さいので、冷蔵期間に関わらず新鮮な(葉の黄化や腐敗などが無い)穂を利用すると良い(表1)。
- 立ち葉でスマートな草姿なので、ある程度密植も可能だが、ボリューム感は不足しがちになる。
- 適正栽植密度は82.3~100株/m²とする(図4)。

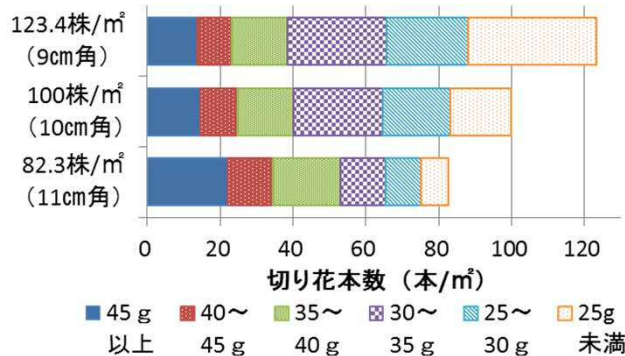


図4 栽植密度(ネット目)と切り花調整重別発生本数(8月上旬開花作型)
 ベッド幅100cm、通路幅40cm。セル成型苗定植21日後消灯。90cm切り花長相当、25g以上を可販とする。

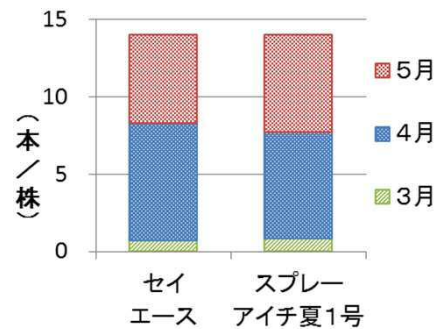


図1 月別親株1株当たり採穂本数

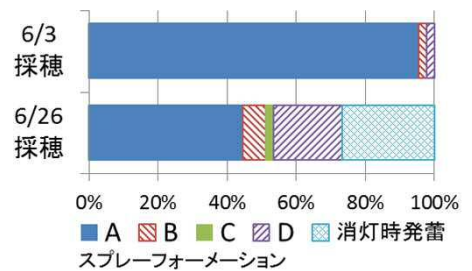


図2 採穂日の違いとスプレーフォーメーション別発生割合(10月上旬開花作型)
 ※7/6挿し芽、7/17定植、8/20消灯

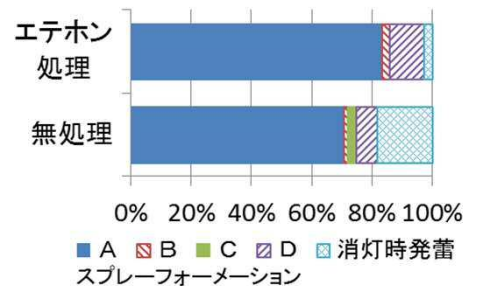


図3 親株へのエテホン処理とスプレーフォーメーション別発生割合(10月上旬開花作型)
 ※親株へのエテホンは200ppm(5/25,6/6,6/15)3回、6/17採穂

表1 穂冷蔵期間と生育・開花(8月下旬開花作型)

穂冷蔵期間	到花日数(日)	開花時草丈(cm)
42日	51.8	98.5
14日	50.8	99.0
なし	50.9	101.6

電照・日長管理

- 電照は、暗期中断4～5時間とする。
(9～10月開花作型は早期発蕾防止のため、電照時間を5時間にした方が良い。)
- 消灯後はシェードにより、12～13時間の日長処理を行う(表2)。
(14時間日長では、開花が遅れフォーメーションが乱れるため良くない。また、11時間日長でもわずかだが同様の傾向が見られる)
- 9月末以降の開花作型(消灯が8月中旬以降)は、自然日長でも消灯後 7週以内に開花し、フォーメーションも乱れないので、無シェードでも栽培可能である(図5)。

表2 消灯後日長処理と開花
(7月上旬開花作型)

日長処理時間	到花日数(日)	消灯後増加節数	スプレーフォーメーションA、B(%)
11時間	50.1	25.8	87.5
12.5時間	48.2	24.9	97.2
14時間	59.8	27.0	58.3

※日長処理は、消灯(5/20)後22日間行い、その後自然日長とした。

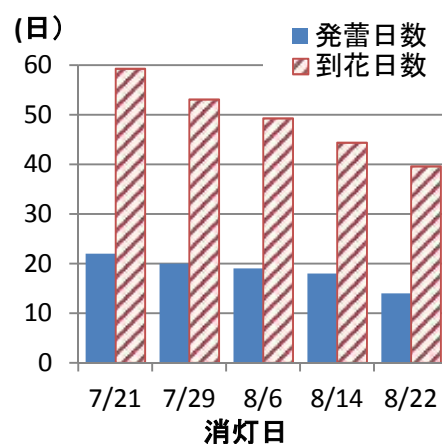


図5 消灯日と発蕾・到花日数
(消灯後、露地無シェードで管理)

わい化剤処理

- 切り花のボリューム感が欲しい場合は消灯後にわい化剤(ダミノジッドなど)を散布する(表3、図6)。

消灯10～20日後に1回散布。

20日後散布では重さは変わらないが草姿のボリューム“感”は増える。

早めの散布では、草丈が短くなるので注意。

表3 ダミノジッド800ppm処理と切り花品質 (9月上旬開花作型)

ダミノジッド処理時期	到花日数(日)	開花時草丈(cm)	花首長(cm)	切り花全重(g)	90cm長調整重(g)
消灯10日後	51.7	98.8	5.6	76.3	64.6
消灯20日後	51.3	103.1	5.8	74.5	60.7
無処理	51.5	108.8	8.1	77.0	59.2

※6/22定植、7/21消灯



図6 ダミノジッド処理と開花時の草姿
(左:無処理、右:800ppm消灯9日後1回散布)

生理障害(黄斑点)対策

- 生育中の高温・乾燥によって、葉に黄斑点が発生することがある(図7)。換気、ミスト散水などをして、施設内が高温にならないように注意する(図8)。
- 根が傷むと、発生が増える傾向があるため、土壌の乾燥、過湿、多量の施肥などは避ける(図9)。



図7 黄斑点症状

無: 斑点無し
 微: 葉裏から斑点が分かる
 少: 葉表に斑点が数点ある
 中: 一見して斑点が分かる(図7)
 多: 斑点症状が激しい

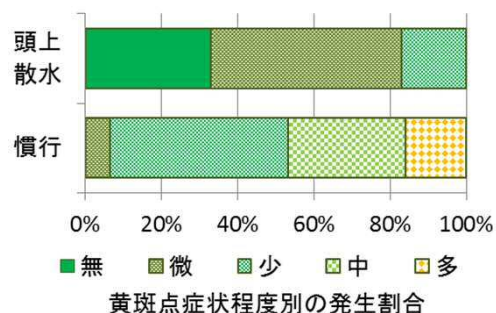


図8 頭上散水と黄斑点症状

※ 頭上散水は、気温30℃以上の時、頭上かん水装置で植物に散水(40分間隔,1分間かん水)し、気温・葉温の低下を図った。

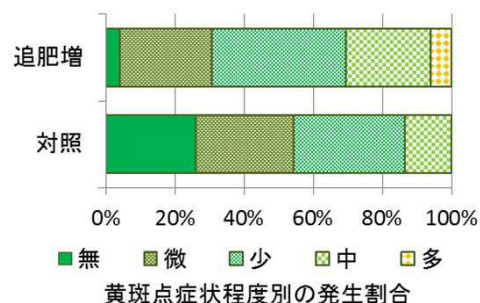


図9 施肥量と黄斑点症状

※ 基肥は10a当たり17kgN施用。対照区は追肥4kgN施用。追肥増区は追肥13kgN施用。ペレット配合肥料で施用。

病害虫対策

- アザミウマの防除を徹底する。
- 他の品種に比べ、アザミウマの吸汁痕が葉に残り目立ちやすい。
- その他、ハダニ、アブラムシ等、病害虫の発生に注意する。

栽培許諾

「スプレーアイチ夏1号」は、愛知県と全国農業協同組合連合会(全農)が共同育成した。種苗法に基づく登録品種であり、栽培には許諾契約が必要である。

連絡先: JA全農 営農販売企画部 営農・技術センター 農産物商品開発室
 TEL: 0463-22-1024